

令和4年度富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター

運営会議 議事録（要旨）

期 日 令和5年2月8日（金）10:30～12:00

場 所 県民カレッジ富山地区センター学習室

出席者 委員【10名】（五十音順）

油本 進	富山地区センターカレッジメイト
今井 壽子	有限会社ゼフィール相談役、雄峰高等学校評議員
片岸 昭二	南砺市立福光美術館館長、ギャルリ・ミレー館長
笹田 茂樹	富山大学教育学部教授
竹浪 里枝	富山地区生涯学習団体協議会運営委員長
寺西 外美	富山市社会教育委員
松崎 訓子	富山市立図書館よみきかせの会代表
森川 敬三	とやま草樹句会代表、県民カレッジ自遊塾県民代表
八島美智子	富山県民共生センター館長
山口 吉弘	富山県公民館連合会理事、富山市公民館連絡協議会副会長

事務局【8名】

富山県民生涯学習カレッジ 本部（1名）
富山県教育委員会生涯学習・文化財室（1名）
富山県民生涯学習カレッジ富山地区センター（6名）

1 開会（進行：県民カレッジ富山地区センター 副所長）

2 開会の挨拶（県民カレッジ富山地区センター 所長）

- ・令和2年度、令和3年度はコロナの影響で書面決議をさせていただいたので、皆様と一堂に会するのは3年ぶりになる。
- ・今年度、富山地区センターは10周年の節目を迎える。平成25年度に開所してから、講座や学遊祭、わくわくシアターなどの事業に多くの県民の皆様に出席をしていただき嬉しいことである。
- ・コロナ禍以前は年々、受講者も増えていたが、コロナ禍の令和2年度はすべての講座を中止せざるを得なかった。また、令和3年度以降は、人数制限を設け、換気や消毒を徹底して、講座を運営してきた。それでも受講者の方は、毎回楽しみに講座に参加している。
- ・新しい試みとして、令和3年度からオンライン受講を開始し、自宅から講座に参加できるようになった。オンライン受講は2年目だが、コロナ対策ができ、遠方からも参加できるので受講者が少しずつ増加している。
- ・学遊祭は毎年、雄峰高校学園祭と同日開催し、雄峰高校と交流をしてきた。だが、コロナ禍の影響で令和2年度は別日程で実施した。令和3年度は、また雄峰高校学園祭と同日開催したが、高校との交流は行わなかった。令和4年度は感染対策をして、ステージ発表など高校との交流を行った。
- ・富山地区センターが県民により広く知られ、愛されるような生涯学習施設になるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 委員紹介（各委員・事務局自己紹介）

4 議事（進行：笹田運営会議会長）

（1）令和4年度事業報告

（事務局）

①学習機会の提供

- ・つながる学びわくわく講座 前期5講座（14回） 後期2講座（7回）
- ・人生100年時代特別講座 後期1講座（5回）
- ・教養講座 1講座（8回） ※富山地区生涯学習団体協議会への委託講座
- ・自遊塾 4講座開講
- ・共学講座 30講座開講

②学習情報の提供（4～12月）

- ・「とやま学遊ネット」による情報提供
※学遊ネット全体のアクセス件数 683,036件
※富山地区センターホームページアクセス件数 12,769件
- ・「センターだより」による情報提供 第1号（前期）6,000部 第2号（後期）5,000部

③学習相談（4～12月）

- ・学習講座に関する相談 1,054件
- ・講師・指導者に関する相談 0件
- ・団体・サークルに関する相談 2件
- ・その他 21件
※富山地区センターの相談件数 1,077件

④学習交流の場の設定

- ・富山地区センター学遊祭…令和4年11月4日（金）～6日（日） 参加者284名
※11月5日（土）は雄峰高校学園祭と同日開催

（2）富山地区センターの現状と課題

【1 学習機会の提供】

（事務局）

- ・オンラインの修了率は100%であった。ただ、受講者の年代層が年々、高齢化しており、今後、若い世代をいかに呼び込むかが課題だ。

（委員）

- ・現地研修の修了率が低かった原因をわかりやすく説明いただいた。私どもの俳句の会でも、現地で集まって俳句を詠んだりしているが、年々、参加者が少なくなっているのを頭を悩ませている。他にも何か原因はあるのか。また、何か解決策を考えておられるのかお聞きしたい。

（事務局）

- ・ご家族から車の運転が心配なので止められたということを知った。過去には貸切バスを利用していたことがあり考えてみたが、利用される方が何人いるかなど経費の面で計算しづらいので、車のない方は公共交

通機関を利用して来ていただくようお願いしたい。

(委員)

- ・現地研修は車で行って、現地ですぐに話しが聞けるというのが魅力である。そのときから参加されている方が高齢化し、車にも乗れなくなっているので、徐々に受講者が減っているのは当然かと思う。また、新たな現地研修の場を見つけるのもたいへんであり、様々な理由で参加が難しくなっているのだと思う。

(議長)

- ・新規の方をいかに開拓していくか、また新しい場所の開拓が高齢化に歯止めがかかるのではないかと。

(委員)

- ・オンライン受講の修了率が100%なのはすごい。ただ、オンライン受講は対面と違い息づかいが感じにくいので、時折、対面で受講出来ればよいのではないかと。また、学び直しができる講座があれば若い人が参加できるのではないかと。

(事務局)

- ・ご意見として、お伺いする。

(委員)

- ・定年が65歳になり、若い人がウイークデーに参加をするのは無理だと思うので、オンライン受講はいいと思う。現地研修については、免許を持っていない人が、他の人に頼むのも頼まれる方も人命に関わることなので、頼みづらい。また、車でないと行けない場所があるが、バスを降りたらすぐ行けるように場所の選定をしていただけるとありがたい。

(委員)

- ・私も美術館巡りの現地研修に参加させてもらったことがあり富山の魅力を感じた。現地に赴きそこで実感できることが魅力なので、たいへんだが現地研修は是非、続けてほしい。
- ・つながる体験コースに「お子様やお孫様との参加も可能」と書いてあるが、実際にどれだけの参加があったのか。お子さんやお孫さんと出かけられるのはいい体験になるし、若い人も取り込め、祖父母にとってもよい体験になるのでいい取り組みだと思う。

(議長)

- ・子どもさんやお孫さんは参加できたのか。

(事務局)

- ・残念ながら今年度はお子様の参加はなかった。設定も夏休みの時期にしたが、こちらの宣伝不足があったのかもしれない。今後は近隣の小学校や幼稚園にも宣伝し、広めていきたい。
- ・現地研修のご意見を頂いているが、昨年度、美術館巡りを実施したときは、公共交通機関で行ける場所だったので参加率が高く盛況だった。なお、講師の方から作品の説明を聞きながら受講できたことが魅力だったと感じた。

(委員)

- ・主催講座の名前が毎年、違ってくるのはなぜか。(令和3年度は「とやま新時代講座」、令和4年度は「つながる学びわくわく講座」)
- ・知り合いから是非言って欲しいといわれたことがある。「共学講座で英語の授業を受講していたが、先生の説明がわかりやすく、高校生と一緒に勉強できて考える時間を与えてくれた先生に感謝している。」私も共学講座を受講したことがあり、わくわくしながら受講できた。共学講座については、高校生と社会人が気持ちよく受講できる環境づくりをお願いしたい。

- ・富山市のシニアライフ講座で「スマホ教室」を受講しているが、高齢者でもパソコン・スマホが操作できるようになるとオンライン自宅受講に繋がるのではないかと。

(委員)

- ・毎年、興味深いテーマを組み立てられるのはたいへんだと思う。令和4年度はオンラインの修了率が100%ということだが、オンラインを活用された人数、対面受講された人数のデータや他地域との交流の講座を受講された人数が分かるとよい。
- ・新川地区センターで学習専門員として勤務していたことがあるが、体験講座で修了率のことを考えて3回ものと4回ものどちらがよいか悩んだことがあるが、楽しい企画をされたらよいのではないかと。
- ・内部資料として新規受講者率のデータを分析し、新規の方をいかにリピーターに変えていくかの次へのステップへの仕掛けを考えるとよい。
- ・倍率の高い講座は新規の方を優先する配慮をすれば65歳以上の方を取り込んで問題はないと思う。

(議長)

- ・オンライン受講がどれだけ増えたかや新規の方の人数が分かれば教えてほしい。

(事務局)

- ・オンライン受講された人数は、一番多い講座で11名、少ない講座で3名と人数に幅があった。意見にあったように、受講人数の区分けを資料の中に記載していきたい。

(生涯学習・文化財室)

- ・先ほど講座の名前が変わっている(新時代講座とつながる学びわくわく講座)とのご意見があったが、昨年度実施の新時代講座は国の助成100%の講座であった。これが令和3年度で終わったので、講座数も予算も減らさず継続するためには、名前の書き換えだけでなく内容も充実させるようにとのことだった。4地区すべての会議に出席させてもらったが、体験コースの講座はどの地区もよい内容となっている。

【 2 学習情報の提供 】

(事務局)

- ・シニア層でもスマホ保有率は高くなっているが、センターだよりによる情報入手の割合は大きい。

(委員)

- ・富山市婦中町の速星公民館で、昨年来ずっとコロナ禍で公民館事業がなかなかできず、中止などになり、どうしようもない時期があったが、スタッフで考えて昨年2月からフードドライブを開始した。その時に出前講座も実施した。その案内のチラシを校区の所帯に一枚ずつ入れたが、校区外からは公民館学遊ネットにアクセスされた方から、いろいろな問い合わせがあり、フードドライブに協力いただけたという結果が出た。非常に制度として有難いものを立ち上げていただけたということで感謝している。ちなみにこういったことをするのは3回目になるのだが、少しずつ成果が上がってきている。

(委員)

- ・講座の情報入手手段として、センターだよりやカレッジHPとあるが、富山市の場合は、広報紙が毎月5日と20日に全世帯に配布され、2月20日にはシニアライフ講座や市民大学の次年度の募集案内が載る。県民カレッジの受講申込みも3月初めに前期案内、9月に後期案内が公民館等で配布されるが、各地区の広報紙を活用できれば、全世帯分に情報が届くので、より若い人も含めて広い層の参加者が増えるのではないかと。ご検討いただければと思う。

(委員)

- ・広報誌の表紙に載せてもらうだとか、富山市の広報担当の方から言ってもらうのはどうか。

(議長)

- ・とやま学遊ネットは何年くらい前からスマホ対応になっているのか。

(事務局)

- ・令和3年度末の新学遊ネットになった時からスマホ対応になっている。

(委員)

- ・それでやはり格段に使いやすくなっているとは思いますが、高齢者の方がどこまでアクセスできるかという問題は出てくると思う。

【 3 学習相談 】

(事務局)

- ・講座に関する問い合わせや相談が多い。

(委員)

- ・学習室を利用するには、どうしたらよいか。実はある生涯学習団体から使いたいのだがいつ空いているかわからない。学習室は富山地区センターへ電話をしていつ空いているかを確認して予約すればよいか。また代表の方が、Wi-Fi環境があればもっといいと言っておられた。
- ・オンラインやとやま学遊ネットを利用しようとする、ある程度年配になると使う人は使うが、使えない人もいる。ちょっと勉強してみようと思う人がいると思うが、そういう興味のある方を対象に何かをやってもらえれば、学習室の稼働率が上がり使いやすくなると思う。

(事務局)

- ・まず富山地区生涯学習団体協議会へご入会いただき、それから利用いただくという手順になっている。個人では利用できない決まりになっている。

(議長)

- ・個人ではなく、団体として登録して使えるようになるということでしょうか。

(事務局)

- ・はい。

(議長)

- ・月ごとの相談件数が上がってきているので、これからコロナもどんどん解除されていけばこういった相談件数も増えていくと有難い。

【 4 学習交流の場の設定 】

(事務局)

- ・今年度の学遊祭は雄峰高校学園祭と同一開催し、ステージ発表や教室での活動を再開したところ、一般の方にも来所していただけた。来年度は制限のない状態で開催できることを期待したい。

(委員)

- ・交流の場の設定が雄峰高校の学遊祭であること、それから4月よりセンター通信を雄峰高校の保護者に配布いただいているということは雄峰高校に長い間関わっている者としてとても嬉しいのだが、もう少し雄峰高校以外にも発信していくべきではないかと思う。

(議長)

- ・富山地区センターが雄峰高校と一緒にあるといった地の利を活かしたこのような場の設定というのは非常に素晴らしいことで、先ほど講座の話の中にもあったが共学講座で高校生と一緒に学べるというのも一つの大きな強みになっていると思う。雄峰高校と協力しながら益々広げていければよい。

【 5 その他 】

(委員)

- ・ウェルビーイング実現講座とあるが、新田知事もウェルビーイングを成長戦略の中心に置いている話をされていて、私も関心を持っているのだが、今一つウェルビーイング自体がよく自分自身が理解できていない。ウェルビーイング実現講座とは具体的にどのような内容になるのかということを知りたい。県の方も来ていただいているので、もしよろしければ簡単に結構なので伺えたら嬉しい。

(生涯学習・文化財室)

- ・ウェルビーイング実現講座は、先ほど人生 100 年時代特別講座と似た話になるが、人生 100 年時代特別講座はコロナが影響していて、国が半分、県の財源が半分の 3 年間の講座で今年度で終わる。国の補助金がなくなるが、こちらとしては講座をなくしたくないし、当然、予算も必要である。そこで、予算要求の話を進める中で、これも先ほどの話と同じで講座名を変えただけでは駄目だということからウェルビーイングという話が出てきた。なんとか予算もついた。他地区からウェルビーイングというのは横文字で全然わからない、もっと日本語にしたらよいのではないかという意見もいただいたが、いろいろと事情もあってウェルビーイング実現講座となっている。

(事務局)

- ・大枠でウェルビーイング実現講座を次のように説明している。日々、幸せを感じつつ自分らしく生き生きと生きるため、健康・人間関係・地域など様々な視点から「ウェルビーイング」(真の幸せ)を学ぶ講座である。新聞でもウェルビーイングとはこういったものだというのは説明されてはいるが、私たちもなかなかわかりづらいといったところだが、今のところはこのような説明をさせていただいている。

5 閉会の挨拶 (県民カレッジ富山地区センター 所長)

- ・長時間にわたり積極的に様々なご意見を賜ることができ大変嬉しく思っている。皆様から頂戴したアイデア、ご指摘を富山地区センターの方で検討し、今以上に活用しやすい富山地区センターを目指していきたいと思う。

6 閉会